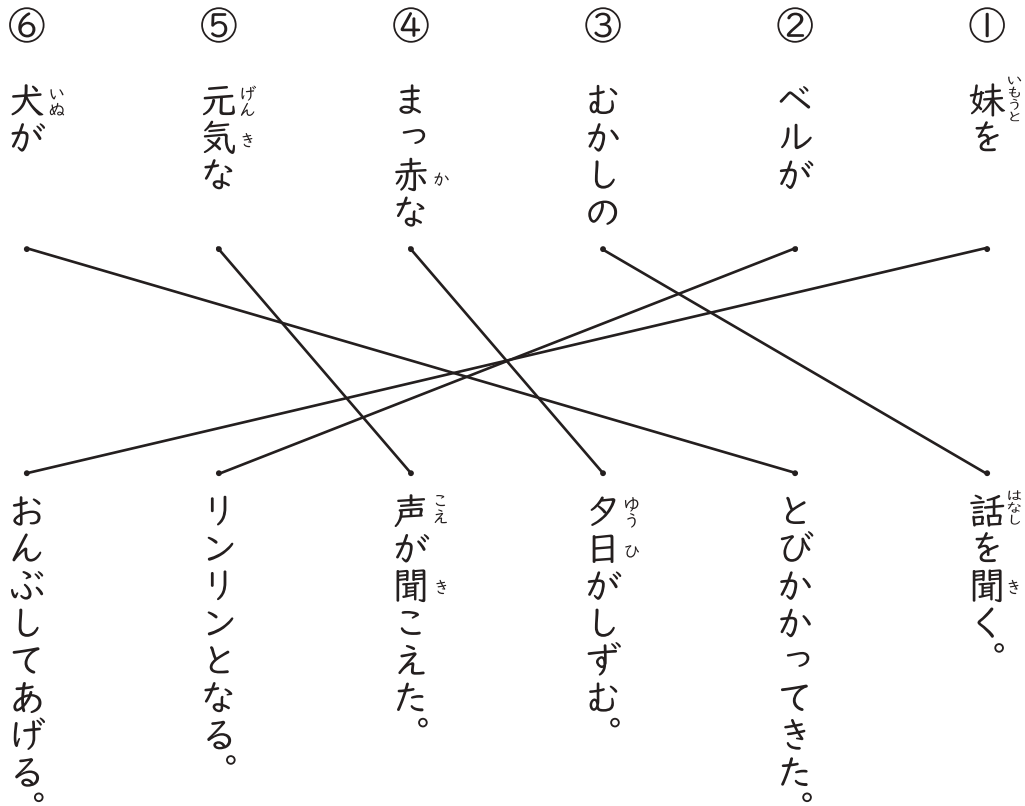


《ふりかえり もんだい4》

上と、下のことをせんでつないで、いみのおる文にしよう。



つぎの文の―せんのことばを、せつめいしているのは、  
どのことばですか。【れい】のように○でかこもう。

【れい】なおくんは、やさしい男の子です。

① すきまから つめたい 風が入ってきた。

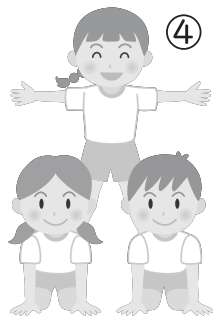
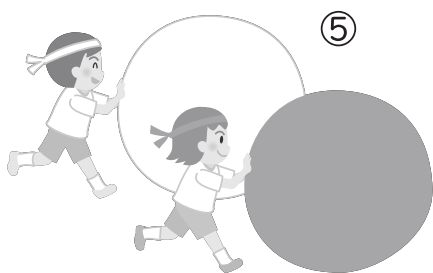
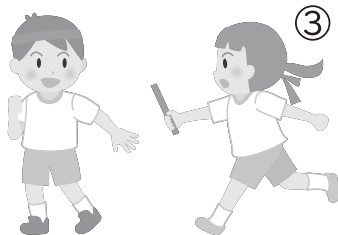
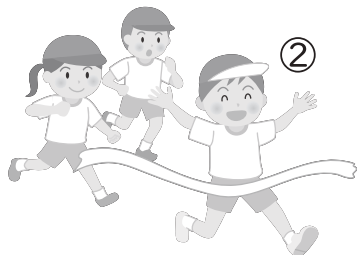
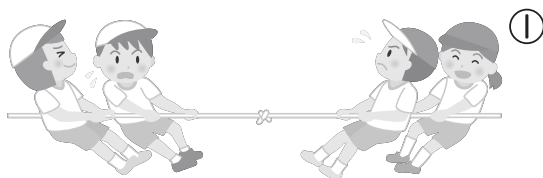
② 青い 空に、 白い くもが うかんでいる。

③ かれは たくましい 体つきをしている。

④ とつぜん おおぶりの 雨が ふってきた。

⑤ にわに きれいな 花が たくさん さいた。

うんどうかいのきょうぎの絵があります。それ  
 どれ何という名前なまえのきょうぎでしょうか。下から  
 おなじばんごうのきょうぎのせつめいをよんで、  
 きょうぎの名前なまえをアからオからえらぼう。



① ふたつのチームが一本いっぽんのつなをおたがいのじん地ち  
 にむかって引き合ひい、きょうぎ。

② 走るはしはやさをきょうぎ。かけくらべや、  
 かけっこともいう。

③ だい一いちそうしやから、だい四よんそうしやまでの四人よにん  
 で、バトンをわたしてつなぐきょうぎ。

④ なんめいかで力ちからをかし合あったり、ささえ合あったり  
 しておこなうしゅうだんきょうぎ。

⑤ 大きな玉たまをころがしながらすすんで、ゴールまで  
 はこぶきょうぎ。

ア くみたいそう    イ つな引ひき  
 ウ 大玉おわたまころがし    エ リレー  
 オ きょうぎ

ウ

ア

エ

オ

イ

上と、下のことをせんでつないで、いみのおとる文にしよう。

|           |           |            |           |           |           |
|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|
| ⑥<br>げんきな | ⑤<br>おいしい | ④<br>きれいな  | ③<br>雲が   | ②<br>きのうは | ①<br>太陽が  |
| 花がさいている。  | いい天気だった。  | ガラガラとまぶしい。 | 声が聞こえてくる。 | 空にうかんでいる。 | ごはんが食べたい。 |

つぎの文の―せんのことばを、せつめいしているのは、どのことばですか。【れい】のように○でかこもう。

【れい】れいさんは、かわいい女の子です。

① おおかみはふかいいどにおちてしまった。

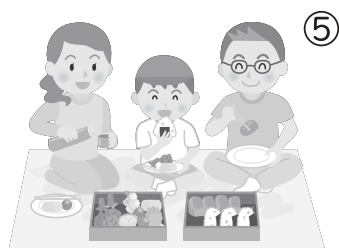
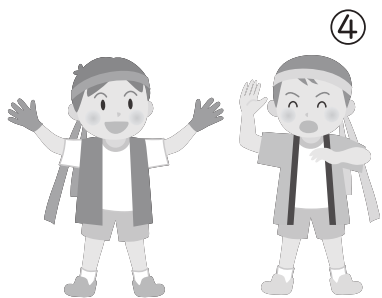
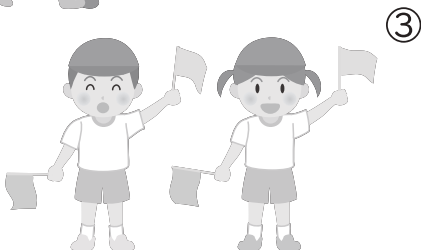
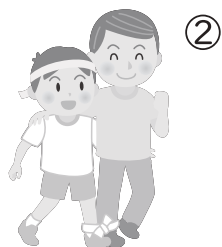
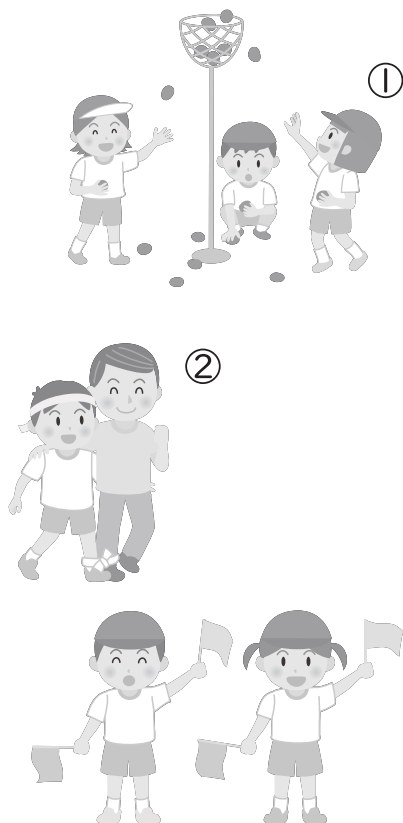
② おじさんの家にはふるい本がたくさん。

③ ありが、大きな虫をせっせとはこんでる。

④ 青い鳥が大空を高くとんでいる。

⑤ あの家は、さんかくのやねがめじるしだ。

うんどうかいのきょうぎの絵があります。それ  
 どれ何という名前なまえのきょうぎでしょうか。下から  
 おなじばんごうのきょうぎのせつめいをよんで、  
 きょうぎの名前なまえをアからオからえらぼう。



① はなれたばしょにあるかごに、お手玉てだまやボールを  
 ながて、かずをきそうきょうぎ。

② 二人ふたりがならんで、となり合った足あしくびをむすび、  
 三本足さんぽんあしにしてはしるきょうぎ。

③ 「赤あか、上げて」「白しろ、上げて」のかけ声かけこゑに合わせ  
 て、はたを上げ下げするきょうぎ。

④ おんがくやがっきのえんそう、うたやおどりに  
 あわせて、チームをおうえんするきょうぎ。

⑤ ごごのきょうぎに向けて、かぞくの人ひとがつくって  
 くれたおべんとうを食たべるおたのしみ。

ア

エ

ウ

オ

イ

ア 玉入れ  
 ウ はた上げ  
 オ おうえんがっせん  
 イ おべんとう  
 エ 二人三きやく

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しようによんでといに答<sup>こた</sup>えよう。

キツネが、地面<sup>じめん</sup>にながながとのびてねむっている大きなヘビを見<sup>み</sup>ました。「じつに長<sup>なが</sup>くて、りっぱだなあ。おれもあのくらい長<sup>なが</sup>いといいなあ。」と、キツネはた<sup>①</sup>めいきをつきました。

そして、じ<sup>②</sup>ぶんも  をすれば長<sup>なが</sup>くなるだろうと考<sup>かん</sup>えて、ヘビのとなりにねて、いっしょうけんめいに体<sup>からだ</sup>をのばしました。うーん、うーんと、むりやり体<sup>からだ</sup>をのばそうとしているうち「ビリッ」キツネの体<sup>からだ</sup>はさけてしまいました。

「イソップ童話<sup>どうわ</sup>」

(1)―せん①「ためいきをつきました」とありますがなぜですか。つぎのアからイからえらぼう。

- ア ヘビの長<sup>なが</sup>い体<sup>からだ</sup>がおそろしかったから  
イ ヘビの長<sup>なが</sup>い体<sup>からだ</sup>にあこがれたから  
ウ ヘビの長<sup>なが</sup>い体<sup>からだ</sup>がおもしろかったから

イ

(2)―せん②「じぶん」とは、だれのことですか。□の中に名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>を書<sup>か</sup>こう。

キツネ

(3)  に入<sup>はい</sup>ることばを、つぎのアからウからえらぼう。

- ア さかだち      イ たいそう      ウ のび

ウ

(4)「ビリッ」とは、何<sup>なに</sup>がどうした音<sup>おと</sup>ですか。□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることばを書<sup>か</sup>こう。

キツネ

の体<sup>からだ</sup>が

さけた

音<sup>おと</sup>

つぎの文<sup>ぶん</sup>しようにをよんでといに答<sup>こた</sup>えよう。

ある日<sup>ひ</sup>のことです。まどの外<sup>そと</sup>をふと見<sup>み</sup>ると、とんがり山<sup>やま</sup>のちようじようがきらきら光<sup>ひか</sup>っています。

「あれ、なんだろう。きのうはあんなものなかつたのに。」たろうは、そう思<sup>おも</sup>ったらいてもたってもいられなくなりました。さっそく、とんがり山<sup>やま</sup>に行<sup>い</sup>ってたしかめてみることにしました。でも、お母<sup>かあ</sup>さんから、「とんがり山<sup>やま</sup>へはひとりで行<sup>い</sup>ってはいけませんよ。」と、言<sup>い</sup>われていたので、お母<sup>かあ</sup>さんに見<sup>み</sup>つからないように  家<sup>いえ</sup>を出<sup>で</sup>ました。

(1) ―せん①「あんなものなかつたのに。」とありますが、きのうまで何<sup>なに</sup>がなかつたのですか。  
□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることばを書<sup>か</sup>こう。

とんがり山

のちようじようで

きらきら

光<sup>ひか</sup>っているもの

(2) たろうはまどの外<sup>そと</sup>を見<sup>み</sup>たあと、どうすることにしましたか。□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることばを書<sup>か</sup>こう。

さっそく、

とんがり山

に行<sup>い</sup>って、

たしかめてみることにした。

(3) ―せん②「お母<sup>かあ</sup>さんに見<sup>み</sup>つからないよう」とありますが、どうしてお母<sup>かあ</sup>さんに見<sup>み</sup>つからないようにしたのですか。□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることばを書<sup>か</sup>こう。

とんがり山へは

ひとりで行<sup>い</sup>っては

いけないと言われていたから

(4)  に入<sup>はい</sup>ることばを、つぎのアからウからえらぼう。

ア ふらっと    イ どたどた    ウ そっと

ウ

つぎの文<sup>ぶん</sup>しようにをよんでといに答<sup>こた</sup>えよう。

たろうはとんがり山<sup>やま</sup>の入り口<sup>ぐち</sup>までやってきました。山<sup>やま</sup>のみち<sup>①</sup>はうすぐらく、いまにもおばけが出てきそうです。たろうは、いつもお母<sup>かあ</sup>さんが言<sup>い</sup>っていることを思<sup>おも</sup>い出<sup>だ</sup>しました。「とんがり山<sup>やま</sup>へ子どもが一人<sup>ひとり</sup>で行<sup>い</sup>くとてんぐに食<sup>た</sup>べられてしまうのよ。」「いつもは、てんぐなんかいるもんかと思<sup>おも</sup>っていました。」「入<sup>い</sup>り口<sup>ぐち</sup>にたってみるとだんだんこわくなってきました。」「どうしよう。やっぱり、帰<sup>かえ</sup>ろうかな。」「たろうは、とんがり山<sup>やま</sup>の入り口<sup>ぐち</sup>をじっと見<sup>み</sup>つめました。

(1)―せん①「山<sup>やま</sup>のみち」はどのようなようすでしたか。ふたつ考<sup>かんが</sup>えよう。

うすぐらい

いまにもおばけがでそう

(2)―せん②「いつもお母<sup>かあ</sup>さんが言<sup>い</sup>っていること」とありますが、お母<sup>かあ</sup>さんはいつもどんなことを言<sup>い</sup>っているのですか。□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることを書<sup>か</sup>こう。

とんがり山

へひとりで行<sup>い</sup>くと

てんぐに  
食べられてしまう

(3)―せん③「やっぱり」とありますが、どうして、やっぱり帰<sup>かえ</sup>ろうと思<sup>おも</sup>ったのですか。□の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ることを書<sup>か</sup>こう。

入り口にたって

みると

だんだん  
こわくなってきた

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しょうをよんでといに答<sup>こた</sup>えよう。

タロは、きのうまでこの町<sup>まち</sup>の小さなしよくどうで、おじさんから<sup>①</sup>ごはんをもらっていました。店<sup>みせ</sup>ののこりものですから、たっぷりではありませんでしたけれど、子犬<sup>こいぬ</sup>のタロにはじゅうぶんでした。タロという名前<sup>なまえ</sup>も、そのおじさんがつけてくれました。タロは、けさもいつものようにしよくどうに出<sup>で</sup>かけていきました。ところが、店<sup>みせ</sup>は戸<sup>と</sup>がしまつてしんとしていました。タロは、うら口<sup>②</sup>にまわつてみました。店<sup>みせ</sup>が休み<sup>やす</sup>の日<sup>ひ</sup>、おじさんは、うら口にドッグフードのさらをおいてくれています。うら口<sup>③</sup>に、さらはありました。でも、からっぽでした。ほかののら犬<sup>いぬ</sup>が食<sup>た</sup>べてしまったのでしょうか。タロは声<sup>こえ</sup>をはりあげて、おじさんをよびました。でも、へんじはありません。「シッ」となり家のまどがあいて、女<sup>おんな</sup>の人がタロをにらみつけました。タロは、おどろいてにげだしました。

(1) タロという名前<sup>なまえ</sup>は、だれがつけましたか。□の  
中<sup>なか</sup>に書<sup>か</sup>こう。

しよくどうのおじさん

(2) —せん①「ごはんをもらっていました」とありますが、タロはふだんどんなごはんをもらっていましたか。□の中<sup>なか</sup>に入るこはを書<sup>か</sup>こう。

店の  
のこりもの

(3) —せん②「うら口にまわってみました」とありますが、それはなぜですか。アからウからえらぼう。

ア ほかののら犬<sup>いぬ</sup>がいて、ごはんを食<sup>た</sup>べることで  
きなかったから。

イ 店<sup>みせ</sup>が休み<sup>やす</sup>の日<sup>ひ</sup>には、おじさんはうら口<sup>ぐち</sup>にごはん  
をおいておくから。

ウ いつも店のうら<sup>みせ</sup>口<sup>ぐち</sup>で、おじさんからごはんをもらって いるから。

イ

(4)ーせん③「からっぽ」とありますが、何<sup>なに</sup>がからっぽなのですか。じぶんのことはで書<sup>か</sup>こう。

さらのなか (のドッグフード)

(5)お話<sup>はなし</sup>のさいごにタロはおどろいてにげだしましたとありますが、それはなぜですか。じぶんのことはで書<sup>か</sup>こう。

女の人ににらまれて  
こわくなったから

(6)もういちど、ーせん①「ごはんをもらってしました」にちゅうもくしよう。このことから、タロがどんな犬<sup>いぬ</sup>だとわかりますか。考<sup>かんが</sup>えて書<sup>か</sup>いてみよう。

例

しよくどうのおじさんに  
かわいがられている

しよくどうのおじさんに  
タロはなついている